

光の子



No.116 2005.12.25

●今年の聖句 あなたがたは何をするにも、人に対してではなく主に対するように、心から行いなさい。(コロサイの信徒への手紙3:32)



「みんなでケーキを作ったよ」

挿絵・中島英子

クリスマスの祝福が豊かにありますよう

お祈り申し上げます。

社会福祉法人 光の子どもの家

「白鳥」

着水を遠くに決めて白鳥未

白鳥は愛の光りを満身に

白鳥はしづかに群れて争はず

白鳥の巨花ゆつたりと白さざなみ

白鳥に近づき白鳥にはならず

恋白鳥光りの中の対極に

消ゆるためには白鳥は白すぎる

落合 水尾 (『浮野』主宰)



光の中のクリスマス

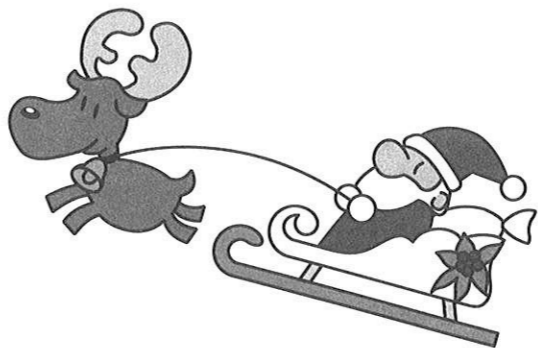
竹花 信恵

今年もまた、クリスマスの季節がやってきました。私たち光の子どもの家では、クリスマス一ヶ月前の四回の日曜日、いつものような各家での食事ではなく、アドベント礼拝後は、一堂に集まった夕食会となります。

二軒のグループホーム合同のテールマスターに続いて、各家持ち回りでの役割を務めます。点火されるローソクが一本ずつ増えて四本となり、デザートのクッキーが一枚ずつ増えて四枚となっていく四回の日曜日の過ごし方、その過程で、クリスマスの準備をし、楽しみに待つひとときとなります。子ども達の心の準備は、大人を上回り、どんな元気な子どもでも半袖ではなく長袖がびったりの風を感じる頃、「今年のクリスマス」を思い描くようになっていきます。「私、絶対天使になってね。天使じゃなきゃいやだ。別に、天使長でもいいけどね。」目の輝きだけであっという間に天使になれる女の子達。どこまでも響く大きな泣き声に、時には「もう！何とかしてよ」という心の声が彼女から聞こえそうな時もありますが、とても優しい「天使長」になれそうです。中高生になると「聖歌隊だつたらやるけど、あとはやらない」ときり気なく、強力にアピールしてきました。こんな子どもに限って実は何でも引き受けてくれる頼もしいリーダーです。

このように、私達のクリスマス当日の祝い方は、生誕劇、ページェントです。この家も大家族となつていく中で、イエス様の生まれた時の状況を身振りと言葉で表現する実にシンプルであり、素朴な生誕劇を全員で力を合わせて表現するのは簡単なことのように、そうではありません。子ども、卒園生、職員総勢六十数名、誰かが一人でも抜けるとできないという不思議さは、この家の持つ性質を体現しているように思います。

心も体も一回り大きくなれた子ども達に二十四日の深夜、どこからかサンタさんがやってきて素敵なプレゼントを置いていってくださるでしょう。今年もたくさんの方がありました。そのたびに支えられ、祈っていたことを心から感謝しています。子ども達には諦めるなと伝えながら、「私達では無理」ということが表現されたことの多い日々でした。そして、その現実の厳しさは薄められることはないこ



とを思います。ただひとつ、私達が「できない」という分を最後に子ども達の背に負わせることがないように、そのことだけを願います。何といっても、子ども達が育つ場所として許され、用い続けられることができるように歩んで参ります。

私達の家の夜空は星がきれいで、ピンと張りつめた空気の冷たさにかじかみませんが、寒い時にこそ暖かさが嬉しく、暗い時こそ光を強く感じます。暗闇の中で立ち尽くすことのないよう、そんな時に「光」としてのイエス様の誕生を共に喜び、導かれることを願って新しい年へ向かいたいと願います。

続・トムソーヤ達の朝

日本キリスト教団東大宮教会 永野 三恵

教会ではクリスマスの四週間前の日曜日からアドベント(待降節)に入り、主イエスの降誕を心から待ち望む大切な時である。幼い子ども達にとっては、クリスマス

までのこの時期、日常生活とは違ったワクワクドキドキする待ち遠しい時である。だが教会学校の中高生は、中学生や高校生には、クリスマスの意味をもっと内的にとらえ、深める時としてもらいたいと切に願っている。彼等が今生きているこ

時、この世界は益々暗闇に閉ざされ、他の人に思いを馳せるより、まず自分だけの利益を追い求め、愛や喜びより、憎しみや悲しみの方が支配しているように思える社会……。その中であって、

どうすれば心の中に平和を、また人への愛の心を宿すことができるようになるか、若い魂が揺り動かされる時」となつてほしい。

この季節になると、三十年も前に過ごした北ドイツの町キールでのクリスマスが、今でもなつかしく思い出される。アドベントを迎える頃、マルクト広場に樅の木が立ち、家族総出で樅の木を品定めをし、父親を先頭に子ども達も一緒に樅の木を担いでいく姿が見られた。

毎朝、日付の記された扉を開けると、かわいらしい天使や動物の絵と共に、チョコレートなどが出てくるアドベントカレンダーを娘達はとても楽しみにしていた。夜には電気を消し、ろうそくの灯をともし、暖かい暖炉の側で賛美歌を歌い聖書を読み、思いを主の御降誕へと寄せていった。重い灰色の冬空の下でクリスマスは、光といのちと愛に満ちたものだった。

娘達が成長し、各々良きパートナーが与えられ、家庭を持つている今は、我が家のクリスマスも異なる迎え方となった。五年程前から、近所のレストランを

会場にささやかなクリスマスコンサートを開いている。もう退職なさつて、悠々自適の暮らしをしていられる「教養の人・Y氏」から、不思議な縁でリコーダーを教えて頂いている。

月二回、日曜日の夜、五名のメンバーが集まり、バロック音楽をソプラノ・アルト・テナー・バスのパートで合奏している。忙しいことを口実に練習を殆どしないで参加している私に、Y氏はいつも「Mrs.ナガノ。楽しめばいいんですよ。上手い下手よりも」と慰めて下さる。練習が終わった時には、「今度こそ練習してこよう。」と決心するのだが、次の時はまた懲りもせず、いつもの私そのまま顔を出してしまう。

最初の頃は、夫は専ら「いつまで続くのかな？」などと冷やかしかつた。定年になり、少しゆとりが出てきたので、研究一筋できた夫に、アンサンブルの仲間に入らないかと私は勧めた。最初は私の方が上手に出来ると安心感の上にあぐらをかいていた。理系の人間の基礎を疎かにしないで真面目に取り組むという鉄則をこのリコーダーにも適用したのか、驚いたことにたちまち夫の腕前は上がついていった。とに角、私にはとても真似ができない。しよんぼりしている私に、またY氏は、

「ウン。Mrs.ナガノは実に正確だ。だが、Mrs.ナガノは曲の感じをつかんでいる」と慰めてくれる。私はこんな具合に、仲間の好意に甘んじながらリコーダーアンサンブルを続けている。今年も十二月二十四日にコンサートを開くことになった。ちなみに演奏曲目は、バロック時代のイタリヤの作曲家コレルリの『クリスマスパストラレ』と、ドイツの作曲家プレトリウスの『クリスマスのための二つの歌曲』である。

出演者五名と、都合のつく各々の家族がこじんまりと聴いてくれる。その後、そのレストランのシェフの心こもったランチを美味しく頂き、今年も何とかコンサートを開くことができたことを喜びあつて解散となる。こうしたささやかな楽しみが、今の私のクリスマスに彩りを与えてくれている。

いと高きところには栄光の神にあり、地にあり、御心に適う人にあり。

(ルカによる福音書二・十四)

久しぶりにアメリカを旅した。より正確に言えば、「9・11」以後は渡米したことがなかった。だから、あの事件以後のこの国の変貌を、直接この眼で見たことはな

憎しみの時を越えて

山形大学 仙道 富士郎
学長

久しぶりにアメリカを旅した。より正確に言えば、「9・11」以後は渡米したことがなかった。だから、あの事件以後のこの国の変貌を、直接この眼で見たことはな

学者もどきのつぶやき ⑥8

ただ、今回見たアメリカは、これまで幾度となく訪れ、また二年間住んだことのあるこの国とは全く異なっていた。一緒に旅した教育学部の教授は、最近この国に足繁く通っているらしく、トラベルケースの鍵は掛けないように私に忠告した。まさかと思ひ私は「どうした。私のケースは無事であったが、彼のは何の許しもなく検査官の手で開けられてた形跡が明らかだった。私が彼のケースに入れてもらった、テキサス州立大学からの贈物の金属のメモ帳が疑いをかけられた結果であった。」

この国の人たちは、私たちには狂気とも思えるこうした状況にもいらだってはいる。えらくのんびりとこの狂気の状態を受け入れているように見える。多民族国家では、いったん芯からの争いが起これば、国自身がどうにもならなくなってしまうことを知っているからか。



エッセイ ちよつとおかしい話

病院にて

このところ、大学病院へ何度も通った。家内があちこち診察を受けるのである。私は運転手として行くのだが、運転手にとっても余り楽なことではない。つまり、九時に予約をいただいたとしたら、途中の道路の混雑を考えると、病院まで二時間みなくてはならない。七時に家を出て、車を運転しながらおにぎりを食べ食べ病院に向かうのは、なかなか大変である。それに家を出るまでが忙しい。

彫刻家 中島 陸雄

「病院の売店で風邪薬を売っているかなあ。」と私。家内は「まさか、ここは病院なんだから、先生が診断しないのに薬を売るわけはないんじゃない？」と、のたまわく。そう言えはそうかも知れない。素人の私が「風邪ですから薬を」と、勝手に診断をして良いのか。しかも病院内で。それなら、先生の診察を受ければ当然、処方箋によって薬は出してもらえる。しかし、予約なしの初診で、この大勢待っている中で順番待ちをするのには、大変な勇気がいる。しかたない、多少の頭痛は我慢しよう

と聞く。私が様子を説明すると「あ、そんならこれは？」と薬をすすめてくれた。私はその場で水をもらい、錠剤を三粒飲んだ。

あろうと何であろうと、かまわないのである。それにしても、長い間夢見ていたのがトンカツとは、余りにもささやかである。しかし、高価なものは口に合わないし、胃袋も目を丸くするだろうから、こんなところ

或る時、車に乗り出してしまつてから、私は風邪気味なのか少し頭が痛いのがついた。鼻も痛い、のども痛い。しかし、そんな事にはかまっていられず、とに角時間だけを気にしながら車を走らせていた。

病院内は早くから混雑していた。よくもまあこんなに病人がいるもの

そのうち、のどが渴いてきた。お茶でも買おうかなと思つて売店へ行つてみた。すると、そこには何と、薬らしいものが並んでいるのだ。思わず私は「風邪ですが良い薬はありますか」と聞いてしまった。そしてその直後、「ちよつとまずいかな」と思つた。医者でもない自分が「風邪ですが」と、病名を断定してしまつたのだ。しかし、売店の人は、少しも咎めず、「症状はどうですか？」

病院内の帰り道、家内は診察の結果が良かったものだから、今日は思い切り食べたいものを食べようと、悲愴な思いを胸に抱いていた。何日も前から、診察の結果が良かったらあれを食べよう、いやあれにしようなどと探していた。しかし、たどりつく所は決して高価なものではなく、ごく経済的な所に落ち着くのである。つまり、レバトリーが貧しいのである。この日は、それでも一大決心をして「トンカツ」を食べる事にした。体脂肪だか血糖値だかの関係で、食べたものも我慢してきたので、結果が良かったとなると、あぶらで

「こはんと味噌汁はおかわりができますから。」
私は思わず吹き出しそうになつてしまつた。ごはんを半分しか注文しないのに、おかわりをする人がいるのだろうか。
店の人は、マニュアル通りに言つたままでなのだろうが、何だかおかしかつた。



クリスマス



そして、クリスマスをただプレゼントをもらったり、豪華なごちそうを楽しむだけでなく、イエス・キリストの降誕を祝い、思うかべて楽しみたいです。

中三 省二

☆思い出に残るXmasを☆
「光の子どもの家」で過ごすXmasも今年で最後となりました。そして今年は一味違うXmasとなりそうです。今までページェントで聖歌隊でしたが、今年は主役の「マリア」になりました。歌も苦手だし、あがり症なのできちんと演じることが出来るかとても不安です。：が、自分なりに精一杯演じたいと思います。そして最高のXmasを迎えられたらな：と思います。

高三 友那

「Thinking about Christmas」
もうすぐクリスマスです。私はここで初めて過ごします。私は冬は寒くてキライですが、クリスマスとお正月は大スキです。ケーキが食べられるのも楽しみです。ここで迎えるのは初めてで、自分の役割もあって、ドキドキだったり不安だったり、ケーキを食べるのが楽しみです。ハンドベルも初挑

戦なので上手くできるか・・・とにか、無事終われることを望みます。

高一 孝子

クリスマスをおかえて：。
私は、「光の子どもの家」で迎えるクリスマスは四回目となります。今までここで過ごしたクリスマスは、一年目のときは不安や緊張がいつぱいだったけど、二回目からのクリスマスは楽しさがいっぱいでした。でも、過ごしていく中で、必ず思うことがあります。それは、「光の子どもの家」に連れて良かったという事です。

今までのクリスマスは一回も家族と過ごすという事がなく、クリスマスがあること事態忘れていたぐらいなのに、ここにきてから毎年みんなと迎えるクリスマスが待ち遠しいぐらいに楽しみになりました。

みんなはまるで自分の家族のような存在で、本当の家族とは違って一緒に過ごせるという事で自分自身は楽しいし、嬉しいです。私がここで過ごせるクリスマスはあと二回しかないけれど、楽しいクリスマスにして笑顔の沢山あふれるクリスマスになればいいと思います。今年も、ページェントやキャン

僕は冬が好きです。冬は寒くて嫌いだと言う人もいますが、僕は寒いところから暖かいところに入った時や、お風呂、布団に入った瞬間のぬくぬくした感じが大好きです。それと光の子どもの家でやるページェントやキャンドルサーピス、クリスマスのプレゼントを買った時大好きだし、とても嬉しいです。だから、その感謝の気持ちを込めて毎年ページェントをやり遂げたいと思っています。

中二 龍治

Merry Christmas
今年で三回目のクリスマスになりました。今思うと最初のクリスマスから三回目まであまり時間が経った気がしません。気がつけばあつという間に十二月に入っていて、やっぱり時間が経つのは早いと思いました。今年も高校受験で忙しくなると思うけど今年も楽しく十二月を過ごせたいと思います。

中三 雅



おめでとう




クリスマスについて思うこと
クリスマスは救い主が生まれた日です。
救い主の一人子、イエスキリストが誕生された日でのイエスキリストは、神が人にかえてくださって、私たち・ぼくたちを罪から救ってくださった神です。

小六 晃司

十回目のクリスマス
私はここきて十回目のクリスマスを迎えます。
クリスマスといえばサンタさんですが私達の劇を観たらサンタさんではなく「イエス様」に替わってくれたら私達の劇のやりがいがあります。私はこのクリスマスが好きです。みんな「イエス様」を楽しくお祝い出来るからです。私達の考えていることはみんな同じでお客さんが楽しんでもらえたら私達も嬉しいです。

中二 佳美



Last Christmas
あれから十五年、幼い時とはまた違ったクリスマス。どんなに違っていても楽しいクリスマス。私はクリスマスが大好きです。
雪が積もって寒い夜、明かりがともらず暗い家だったら寂しいけど光の子どもの家はたくさん光に包まれているからあつたかい。
今年で最後のクリスマスだけど、来年も来ると思う。

高三 友美

最後のクリスマス
今年でここで過ごす四回目のクリスマスとなりました。四回目までくると、ここでのクリスマスというのに新しい発見もなく「また今年もこの時期がきたな」と思うだけとなっていますが、四回目のクリスマスは、ここで過ごす最後のクリスマスとなる訳です。
新しい発見というものはなくとも心の中に何か浮かんでいる気がします。

ここでの「クリスマス」というのは本当に力を入れています。最初にここでクリスマスを迎えた時には驚きの連続でした。そんな盛大に迎えるクリスマスも今年で最後です。最後のクリスマスを楽しんで過ごしてい

きたいと思っています。
そして、クリスマスというのはこういうもので、こんな風に過ごしたりもするんだ、と色んな人に話してみたいです。

高三 賢

サンタクロースさんへ
ぼくは、サンタさんにありがたうと思っています。理ゆうはプレゼントをくれたりしてくれるからありがたうと思っています。でもサンタさんに、プレゼントがもらえるのもあたりまえとはかぎりません。だからこれからもサンタさんにありがたうと思いたいです。

小五 久志

クリスマスについて
十二月二十五日、クリスマス、それはイエス・キリストの降誕を祝う日である。そして、人々はプレゼントをもらい、豪華なごちそうを楽しむ。クリスマスは大みそかと同じくらい盛り上がるのではないのか。
ところで、よく小学生や幼稚園の子が「サンタさんで本当にいるの。」と言っているのを聞く人は多いのではないだろうか。そのことはサンタクロースに対して失礼だからあまり言わないでほしい。

クリスマスルーム

あかり窓

心理室から

子どもたちの季節

仙道家

グループホームで生活している静一くんは私がここで働き始めたのと同じ頃に三歳でこの光の子どもの家に来てきました。先日、時間が空いたので、グループホームにお邪魔して子どもたちの宿題を見させてもらいました。その後、静一くんに誘われて土手でキャッチボールをする事になりました。

スポーツ万能と聞いてはいましたが、その力は私の予想を超えていました。私はそんなに力がない訳ではないのですが、静一くんの投げられるボールの半分の距離しかボールを飛ばすことができなかったのです。腕力で負けてしまい、成長したなあと思った時に、そういえば...と思い出したのが、去年の夏にみんなで絵を描いている時、ある子の絵を他の子がかかったことです。それをかばったのは静一くんでした。優しさも腕力も身につけ、これからはステキな男の子に成長していくのだろうなあと思ひになりました。

積 みどり

先日、日頃お世話になっている方々をご招待し「第二十一回感謝の集い」を開催いたしました。その中で職員紹介のコーナーがありました。今年のお題は「自分の課題とアピールしたいところ」です。担当者となつて半年の私は子ども達の意見も参考にしようと思い、「牧野さんの直して欲しいところは？」と小野姉妹に聞いてみることにしました。

六歳の姉美貴に訊くと、じつと黙り込み私の顔を見てひこと「髪の毛」...。いつも髪の毛をひとつにちよんまげのように結っている私に「お化粧して」「スカートはいて」というのも美貴です。次に五歳の美歩に同じ質問をします。すると美歩の方は考え込むことなく「お顔！」...。きつとブンブン、ガミガミ怒っている時の私の顔を言ったのでしよう。しかし、そんな二人に「じゃあ、牧野さんのいいところは？」と訊くと姉妹一人ずつ訊いたにもかかわらず答えは同じ「おっぱい!!」でした。さすがに姉妹とも言えますが、そ



牧野 由紀子

れだけではないでしょう。就寝前や一緒に入浴する際によく「おっぱい飲みたい」「牧野さんミルク出ないの？」と子ども達は言います。赤ちゃんはお母さんに抱っこされておっぱい飲んだよ！それで赤ちゃんは大きくなるんだよ！子ども達は知っています。しかし、どんなに欲しがっても、どんなに願っても、今、母親に抱かれおっぱいを飲むことができないことも知っているのでしょうか。そんな子ども達の思いに正面から向き合うこと、それが私の課題だと考えさせられました。

原田家日記

クリスマスが近づき、食卓の話題にもクリスマスのお話が多くなってきました。しかしその内容はサンタさんからのプレゼントの話ではなく、「アドベント」や「ページェント」など、初めてここでクリスマスを迎える私には聞き慣れない言葉ばかりです。「それはね...」と子どもたちに教えられながら、最近では光の子どもの家流のクリスマスを想像し、子どもたちと共に待ち望むようになりました。

先日、私たち原田家がプロデュースする第二アドベントについて、家会議が行われました。何をしようか...歌、踊り、ゲーム、飾りつけ...。子どもたちから活発に意見が出てきます。受験勉強が忙しい子も、期末試験に近い子も、部活で疲れている子も、話に茶々を入れる小学生たちも、それぞれ原田家の一員として、自分にできる役割を担うことになり、力を合わせて皆に楽しんでもらえる、原田家らしいアドベントを作ることが確認されました。

話し合いに大人の意見をほとんど必要としない、たくましい原田家の子どもたちです。光の子どもの家で初めて過ごすクリスマスを彼らと共に迎えられることを、とても嬉しく思います。

鈴木 晶子

季節のおとずれ

市川家

クリスマスが近づいてきて子ども達は「サンタさんくるかな？」とクリスマスはまだかまだかと待っています。

子ども達はあ何日でサンタさんが来るかと数え待っています。私は一足早く素敵なプレゼントをもらいました。

我が家には暴れん坊の男の子がいます。彼はお母さんのことが大好きで大好きでしかたありません。夏休みには彼はずっと会っていないお母さんに会いたくて仕方なくて「お母さんと住みたい。会いたい」とおおい泣いて、自分の思い通りにならないと暴れる事が多くありました。しかし、二学期も半ばを過ぎた頃から、色々な事に前向きに取り組む、とても落ち着いてきたのです。

先日彼が友人に、「今のお母さんは本当のお母さんではない、本当の

お母さんは別の所にいる」と今の自分の状況について笑顔で話していたと聞きました。彼がお母さんと一緒に暮らしたいという気持ちはずっと持ちつづけるでしょう。しかし、今自分が光の子どもの家で生活していることを受け入れる第一歩を踏み出したのです。そんな彼と今一緒にいる事をとても誇りに思っています。そして、彼に出会えた事を本当に嬉しく、感謝の気持ちでいっぱいです。

市川 美穂



光の中で

佐藤家

朝、夕の冷えこみが厳しくなり、子ども達の服装もすっかり冬仕様になりました。もうじき十二月に入るといふ事で、子ども達の頭の中はク

クリスマスの事でいっぱいなのです。夕食時には、サンタさんをお願いするプレゼントや、毎年行われる劇の配役の話がよく出ます。プレゼントについてもテレビゲームが欲しいという子や、ねり消しゴムが欲しいという子どもまで様々です。プレゼント一つとっても、一人一人の個性が出ていて、聞いていて本当におもしろいと思います。

私は、この家でクリスマスを迎えるのは初めてです。どのようなクリスマスになるのか、とても楽しみです。今まで、家の飾りつけに凝る事などありませんでしたが、この家に来て、子ども達と雰囲気作りの楽しさに目覚めました。

これからも、毎年この子達とクリスマスをお祝いしたいと思います。みなさんにとっても、良いクリスマスになりますように。

田口 貴子

河のほとり

倉澤家

メリークリスマス。先日、娘のピアノの発表会が行われました。ペーパードライパーの私は、発表会場までの「足」の心配をしていました。そのことを遊びに来ていた卒園生の正章に相談すると、その日は仕事が

休みなので、自分が送迎を引き受けても良いと言ってくれたのです。正章の申し出に甘え、草加に住んでいる彼に送迎をお願いしました。

その日、たまたま時間の空いていた萌季も沙穂も、そして、どうしても休みのとれなかった亜希は、前日を当直に変えてもらい当直明けで発表会に来てくれました。

発表会後、皆で夕食を摂った時、改めて今日のメンバーの顔を見直し、「元仙道家だ！」と感激。開設時からグループホームを担当するまでの間、私が配属されていた仙道家で、生活を共にしてきた子ども達だったので。何の意図もなく、偶然このメンバーが集ったのでしようが何故かとてもうれしくなりました。こんな時が一番、今まで仕事を続けてきて良かったと思える時なのかもしれませぬ。

もうすぐクリスマスです。今年のクリスマスも大勢の卒園生が顔を見せてくれるでしょう。今からとても楽しみです。

そして、来年には出立つ友那とも、その後に続く乃衣にも、今はまだ幼児の子も達にも、帰ってきた「家」、会いたい「人」となれるような働きをしていきたいと思っています。

倉沢 智子

家族に関わる その9

菅原 哲男

珠恵の実母にはふたりの姉がいて、それぞれに嫁ぎ子をなして暮らしているという。末子の実母は、最初の結婚で二人の子を授かりながら何とか暮らしてはいたが、珠恵が小学入学の年に突然離婚していなくなったという。

そして、珠恵も妹の俊子も生まれた時から働いている両親に代わり殆どその養育を引き受けてきていたと、そのころを懐かしむように話した。

私たちは祖父の話に聞き入った。

敗戦後の荒廃した関東平野は人の住むような場所ではなかったことを繰り返して強調し、そこに住み着き商売を営むに至るまでの困難ななかを生きてきたなどから始まり、子育ての苦労など、しみじみとするその話に深くうなずいて同感を示した。聴いている私と、その体験の場所や状況が違ってもそう変わらない惨憺たる、しかしどこか底抜けの明るさを持っていた子どもの頃のことなどを思い出してもいた。

祖父のこれまでの苦労とその中での子育ての道のりの厳しさは明晰に伝わってきた。

また、実母には三人のきょうだいがいいて他の子どもたちはそれぞれに自立

し家族を形成していた。どうしてあの子だけがこんなになってしまったのかと嘆きもひとしおのものだった。多くの場合児童養護施設を利用する親たちはこのような状況にある。

児童養護施設を利用している者は現在三五〇〇人ほどである。未成人人口の約〇・二％に過ぎない。いってみれば政治的・社会政策的には切り捨てられるような数値や比率なのである。社会階層から見れば普通からかなり偏ったマイナスの極にあると言っているだろう。

そこを利用するに至る経過のなかで、父親や母親は、まず実家に、そして親族に一方ならない迷惑をかけ続け、終いには勘当同然の状態になって初めて児童養護施設利用にたどり着くのである。だから、実家や親族を訪ねてもそのままで子どもたちの利益になるようなことはまずあり得ない。

そこから私たちのほたらきが始まるのである。珠恵の生活のこと、とりわけ健気ががんばっていること、とても優しい心の持ち主であること、そして学校生活を前向きに楽しんでいることなどを伝えたのであった。

過日、祖父母たちが訪ねて下さった時は、どう対応していいか分からずに、ぶつきらぼうなやりとりになってしまったことであつたことなどを丁寧に伝えた。

特に、家族や親しい者たちに長い間会いたいと渴望しながらそれを果たせずにいる児童養護施設の子どもたちが、突然その人が目の前に現れた時取り乱すのが通常なのである。ある者は泣きわめき、ある者は逃げまどうなど激しい感情やこみ上げる情緒をどう表現しているのか分からずしてしまふ。また多くの親や家族がそのような場面に立ち会い、がっかりし来たことを悔やむことも稀ではない。

だから、そのような子どもの思いや激情に駆られる事情を説明し、理解を得て次につなげることが重要なのである。

実母は中学二年生頃までは普通の子どもで高校受験の準備なども力を入れていたのだが、中学三年生頃から目つきが鋭くなり生活が荒れ出しことを傍にいる祖母に聞きただいたりしながら話してくれた。

現場から

19

岩崎 まり子

冷気の中、足踏みをしながら訝々とした星々をながめ入る…。大好きな季節がやってきました。皆様、いかがお過ごしですか。

先日、大阪まで卒園生の加津子のお見舞いに行かせてもらいました。大変な手術をした後で安静にしていなければならぬ期間が過ぎ、やっと歩行訓練をしてもいいという話が出たばかりの時でした。強張った彼女の体をマッサージしながら、私は「あそこに居続けて良かったんだ」というメッセージをもらったようで涙が出そうになりました。

在園中の彼女は、「やりたいことはやる。やりたくないことはや

らない。」を徹底していて、暴言・暴力、学校からの呼び出し、謹慎…。その度私たちは衝突してしました。「こんな私でも愛せるのか」

「お前の愛が足りないから、こんな風になってしまふんだ」彼女から毎日そう言われているようで、私の中では自己嫌悪感と、それとバランスをとるかのようにならぬのどうしようもない負の感情が吹き荒れていました。自分をなだめることもごまかすこともできず。

日々、自分が彼女の担当者で居続けることの意味を考え続けていました。他の職員顔を思い浮かべた時、あの人が「きつと相応しい」と思っていたのです。多分、

た暮らしが続いたが、そこで学んだ事務系の成績が良く、中企業に入社してしばらくは落ち着いた生活をしていた。最初の結婚も珠恵の義父となった相手は同じ職場の同じ係にいた仕事仲間だったという。

珠恵の実母が再婚する時に義父になる人に、「あなたたちの間に子どもが出来ても同じように可愛がることなどとても無理だから」と強く反対したという。そのことがあって以来義父と祖母の関係は回復することがなく現在に至っていたのだ。

再婚後に子どもが二人生まれて混合家族が出来た。そのころから義父による珠恵や俊子への厳しいやりとりが始まり、先に俊子が家を出たいと考えたのだ。家がイヤで学校の帰りが遅くなり、そのことで義父からひどくしかられ、とうとう門限に遅れると家中に鍵が閉められ、俊子は友だちの家に泊まり歩き終いには野宿するようになり、学校から児童相談所に通告されたことなども祖父は涙ぐみながら話してくれた。祖父の家にもたびたび逃げ帰ったが、そのたびに義父と祖母の諍いもあって祖母に迷惑がかかることを目の当たりにすることが重なり祖母宅は俊子の避難場所にはならなくなったのだ。

れたりするので、年月という魔法は偉大です。

今回の入院に際しては、近くに住んでいた元担当者が駆けつけてくれて何かとフォローしてくれています。また、大事を知った、彼女がかつてお世話になった方々や彼女を知らない今の職員の皆様からの大切な心遣いとメッセージが届くにつ、私たちの「働き」について思い巡らせました。

「もし、今、光の子どもの家に知っている職員が居なかったらどうしてた？」

元担当者の由香さんに尋ねました。「どうしていただろう…。」自分でも考えました。個人で出来ること、出来ないこと…。「居続けることが仕事」という意味が、また少し重みを増してきました。

卒園していった元子どもも、卒園していく子どもたちも、そして職員も、何かあったときにここを思い出してくれるでしょうか。見上げればそこにある、夜空の星々のように私たちはここに居る。ここに居ることを選んでしまったのです。

クリスマス、おめでとうございます。

ほんわ家族





画・年長.美貴

日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 = 2005年6月1日▶7月末日

- 2005年6月
 幼児5名 小学生15名 中学生7名 高校生9名 措置外6名
 計42名
- 1日 しずくの会草取り奉仕 感謝
 - 3日 佐藤協子先生来訪職員へ関わりのアドバイス
 - 4日 第11回バザー
 - 5日 久志サッカー少年団の大会で3位に！おめでとう
 - 6日 埼玉学園大学鈴木先生来訪
 - 7日 国際福祉婦人協会受領式
 - 14日 興望館沓掛荘施設長、主任指導員来訪見学
 - 19日 由里子飲食店アルバイト採用貴重な社会体験に
 - 24日 カリフォルニア大より研修生来訪
 - 27日 旭児童ホームへ職員研修の為4名訪問
 - 28日 岩手県カナン学園北村先生来訪
 - 29日 後援会、しずくの会合同バザー反省会
 - 30日 田村理容店様散髪奉仕 感謝

<6月の物品ご寄贈者>
 神宮八江子 曾根秀子 宇並洋子 栗橋キリスト教会
 宝月寿子 小林千江子 サンワ 宮崎ヒロ子 網取八重子
 蛭間アサ 田部井竹子 鈴木和子 宮崎はる子 落合美佐子
 稲村宏子 市川千代子 片岡和子 小柳久子 渋井みさ子
 加部芳子 長沼 穴水まり 内田真奈 東京銀座ベンチャー
 クラブ 他多数の各位様

- 7月
- 5日 原道小学校教師との懇談会
 子ども達の更なる成長を願い夏休み個別計画開始
 - 6日 そば会 朝霞そば組合の皆様による打ち立てのそばを
 美味しくいただく町長・町議長・原道小教師来訪
 - 7日 田村理容店様散髪奉仕 感謝
 - 8日 中学生の省二・龍治大根中野球部大会優勝！雅テニ
 ス部県大会出場！ダブルでおめでとう!!
 - 10日 家庭訪問開始
 - 19日 東小学校教師との懇談会
 - 20日 夏休みオープニングパーティー
 - 23日～26日
 小学生低学年八ヶ岳登山悪戦苦闘も全員が天狗岳登頂
 長野県小海町阿登久良山荘を拠点として
 - 29日～8月1日
 小学生高学年八ヶ岳登山皆で感動の景色を山頂より望む
 引き続きの登山行事にご配慮とご協力をいただいた谷
 本清光先生に心から感謝申し上げます

<7月の物品ご寄贈者>
 松本明子 並木英雄 柴田 森 大西黎子 中島明美 横村ス
 ミ子 他多数の各位様
 感謝してご報告致します。(くら)

/// ———— 反 射 光 ———— ///

☆メリークリスマス！☆この年も多く
 の方々にお支えをいただきまっすぐな
 子どもたちの成長を祈り続けることが
 出来ました☆心からなる感謝を申し上
 げます☆十年ほど前に後数日通えば卒
 業できた高校を中退して、今は大阪で
 暮らしている女子から「脳腫瘍摘出の
 大きな手術をしなければならなくなっ
 た」と担当者だった岩崎に不安に満ち
 た電話がありました☆折良く大阪にい
 る元職員の佐藤由香さんのご家族の力
 もあつて手術に立ち会い、看護などお
 骨折りをいただき、一週間後に岩崎が
 数十万円の職員のカンパを携えて見舞
 に駆けつけました☆その後順調な回復
 が伝えられています☆約十年ほどのこ
 こでの暮らしが、退所して十年を超え
 た後の人生の『危機』を克服するために
 支え合う関係を形成していたのです☆
 児童養護施設の子どもの社会的自立の
 困難さと可能性を確認させられました
 ☆まさに人と人との関係の有り様を生
 涯をかけて伝えられたイエスのご降誕
 を祝いたい☆えう！ご支援を
 (哲)